

平成 30 年 6 月 4 日

第 24 期 第 1 回 材料工学委員会 バイオマテリアル分科会

議事録

1. 日時 平成 30 年 6 月 4 日(木)13:00-14:45
2. 場所 日本学術会議 6 階 6-C(1) 会議室
3. 出席者 片岡一則 委員長、埜 隆夫 副委員長、岸田晶夫 幹事、中野貴由 幹事、明石満、宇尾基弘、大矢根綾子、春日敏宏、菊池明彦、新家光雄、丸山 厚、宮本直子 (学術会議)

出席委員 11 名

欠席者 岡野光夫、高原 淳

欠席委員 2 名

4. 議題

(1) 委員自己紹介

(2) 第 24 期分科会設置の経緯と趣旨説明

・資料 1 に基づき過去の分科会の活動状況、24 期分科会の設置経緯・設置目的を説明した。

(3) 委員長、副委員長、幹事の選出

・資料 2 に基づき、委員長 1 名、副委員長 1 名、幹事 2 名を選出した。

委員長： 片岡一則

副委員長：埜 隆夫

幹事： 岸田晶夫

中野貴由

(4) 特任連携会員申請について

・資料 3 に基づき、由井伸彦先生 (日本バイオマテリアル学会会長) を特任連携会員として推挙し、次回よりご出席いただく件の審議を行い、了承を得た。

(5) 分科会の活動について

・資料 4 の前回議事要旨案を岸田幹事 (第 23 回分科会幹事) から説明。

・資料 5 の提言を岸田幹事から説明。

・資料 6 - 1、資料 6 - 2 と資料 7 のマスタープランの提案結果を埜副委員長 (第 23 期副委員長) から説明。

・マスタープランのインパクトレポート (1~2 枚程度と掲載新聞等) を今年 9 月までに準備・提出することを確認。

・今期の活動方針について片岡先生 (第 23 期・24 期委員長) から説明。

(6) 主催シンポジウム開催について

- ・資料7に基づき岸田幹事から説明、審議。主催シンポジウムは委員2名以上で成立することを確認。
 - 文部科学省、AMEDの双方から招待する方が望ましい。
 - 中野貴由先生に「大型研究費獲得の苦労話、戦略」等の内容でお願いします。
 - 再生医療を支える材料について。
 - バイオマテリアルが生体に働きかける機能や細胞を使わないバイオマテリアルも重要。
 - バイオマテリアルの基礎研究の充実を一層図る必要性。
 - バイオマテリアル学会を牽引するような内容・提案を学術会議（バイオマテリアル分科会）側から働きかける必要。
 - イメージングに関わる材料・分子について。
 - 一見、古典的と思われる材料の中に新しい機能を見いだすことが可能。
 - 企業あるいは臨床の方をお願いしますのも一案。
 - 候補：梶賢一郎氏（JTEC）
：富士フィルム
 - 高齢者のための予防的な医療について。
 - バイオマテリアルの教育からの立場について。
 - 埋め込み型人工腎臓を実現するバイオマテリアルについて。
 - ベンチャー企業を興し、バイオマテリアルを基礎から応用まで知る春日敏宏先生が適任。
- ◎意見集約を行い、文部科学省1名、AMED1名、春日先生、中野先生の4名で構成。
5日の材料工学委員会に諮ることとなった。

(7) マスタープラン提案準備について

- ・10月頃で公募があるため、バイオマテリアル学会を主体として十分な事前準備のもと提案する。
- ◎今後の提案方策について、次回以降に協議することとなった。

5. その他

- ◎24期は他の委員会（医歯学など）にまたがる構想を議論してはどうか。
- ◎次回 平成30年10月30日（金） 10:30-12:00 日本学術会議

第1回（今回）の議事録確認については、片岡委員長一任とすることが了承された。

文責 岸田晶夫・中野貴由